

[特別活動]

小規模校の学級における話し合い活動体験が固定化された人間関係に及ぼす影響

今村 綾乃*

1 問題の所在

当校は、山村にある各学年単学級の小規模校であり、全学年とも幼稚園からほぼ同じメンバーで過ごしてきた。当学級（5年生）は人間関係が固定化しており、思いが通るまで主張し続ける児童がいる一方で、意見を言わずに同調しているだけの児童もいた。一部の児童の発言に従って過ごすことで人間関係が安定しており、発言力の強い児童の意見が多数決で集団決定されていた。子どもたちは決めたことに対して不満はあっても、「言っても言い返されるだけ。」「言っても無駄。トラブルになるだけだから言わない方がマシ。」「と思い込んでいた。何年もかけて築きあげた階層的関係の根底には、これらの「思い込み」があると思われた。固定化された人間関係を形成する要因として認知上の固定化（思い込み）があり、児童一人一人の思い込みを変容させていく介入が必要と感じた。

そこで、昨年度から「話し合い」を活性化させる取組を始めた。まず、全員に自分なりの考えをもたせ、その考えを表明させた。その結果、今まで話をしなかった児童も考えを表明する機会が保障され、『『Q-Uたのしい学校生活を送るためのアンケート小学校用』（河村茂雄）における、学級生活満足度のプロットに変化が見られた。

岩島（2012）は、「話し合い活動の意識化」をさせることで、「自分の意見を言うことや全員が発言して参加することが大切であるという意識をもてるようになってきた」と述べている。また、話し合い活動の具体的方法として新潟市立関屋小学校（2011）では、「まとめる」だけでなく、「折り合う」ことを目指した実践を行っている。「互いの立場や考えを認め合い折り合いを付ける話し合い活動」へ高めることに焦点を当て、相手のことを分かろうとして聴き、お互いの本音や感情を交流するために「問い合う」。そして、より良いものを求め、「説得」し、最後は「納得」することで折り合うことができるとしている。橋本（2013）は、話し合いの多数決のデメリットとして、「日頃の人間関係、力関係、好悪関係などが判断に影響する」場合があり、「望ましい話し合いを具現することとは、拡散から収束へと深める、主張と理解を重ねる、折り合い地点を探ることである」と述べている。

今年度は、固定化した人間関係を改善するために、認知上の固定化（思い込み）をなくし、建設的な意見を自由に交換できる学級集団へと高めたいと考えた。そのために、自分の考えを安心して伝え合うことができるシステムがあり、互いの考えを比べ合う話し合い活動を繰り返し体験させることが必要であると考えた。そこで、入込瀬小学校（2013）で構築した「学びのサイクル7」（図1）をシステムとして活用し、互いの考えを出し合い、考えを比べ合って折り合い地点を探る話し合い活動に継続的に取り組ませ、児童の話し合いに対する意識が変容し、人間関係に影響を与えることができるか検証する。

2 研究の目的

「学びのサイクル7」を活用した話し合い活動体験は、児童の人間関係に対する認知上の固定化（思い込み）を変化させ、固定化された人間関係に影響を及ぼすことができるか明らかにする。

3 研究の方法

- (1) 対象学級 小学校 第6学年 学級児童数11名（男子5名、女子6名）
 - (2) 実施期間 2013年5月～12月
 - (3) 実践と調査の方法
- ・身の回りのテーマを取り上げ、「学びのサイクル7」（図1）に沿った話し合い活動を継続して行う。「学びのサイクル7」とは、学級等の諸問題について話し合って解決する活動の流れを意識化できるように表したものである。

* 魚沼市立入込瀬小学校

- ・話し合い活動における児童の変容を、「学びのサイクル7」に関するアンケートと自由記述を使用して調査する。「学びのサイクル7」に関するアンケート（以下：話し合いアンケートと表記）は、校内の研究推進部で検討して作成した。
- ・次のような4名の児童を抽出し、意識の変容について分析する。抽出児については以下の通りである。
 主張できる児童：児童A 自分の都合に合わせて考えを強く主張し、発言力の強い児童
 児童B 考えを主張するが、Aに反論することができない児童
 主張できない児童：児童C 考えを伝えずに同調するが、陰で不満を言っている児童
 児童D 考えを伝えられず、同調しているだけの児童
- ・集団の関係性の変化をみるために、『Q-Uたのしい学校生活を送るためのアンケート 小学校用』（河村茂雄著，図書文化）（以下：Q-Uアンケートと表記）の学級満足度尺度と学校生活意欲尺度を用い、5月時と9月時の集団と比較する。
- ・調査時期については下記に示す。

- ① 事前調査
 - ・Q-Uアンケート 2013年5月8日
 - ・話し合いアンケート 2013年6月20日
 - ・道徳授業「ルール決め方これでいいのかな」（日本標準）での、自分についての振り返り2012年9月
- ② 中間調査
 - ・話し合いアンケート自由記述 2013年10月26日
- ③ 事後調査
 - ・Q-Uアンケート 2013年9月19日
 - ・話し合いアンケート 2013年12月18日

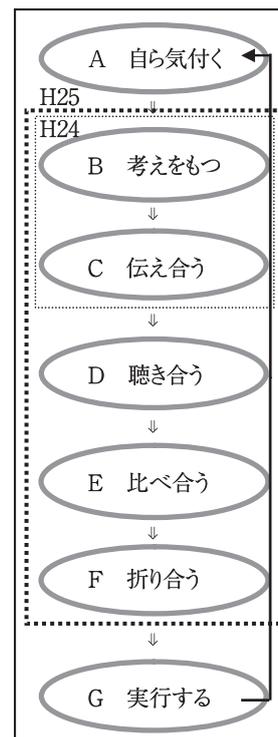


図1 「学びのサイクル7」

4 実践の概要

(1) 「学びのサイクル7」に沿った話し合い活動

今年度は、「学びのサイクル7」に沿った話し合い活動の「B考えをもつ」～「F折り合う」までを重点化し、活動の流れを表1のように設定し、繰り返し活動させた。話し合い活動では、一部の児童が意見を伝えるだけでなく、事前に議題を伝え、必ず全員が考えをホワイトボードや短冊、付箋などに明記し、様々な考えを出させるようにした。誰が言ったかが重要ではなく、どの考えがよりよいか考えさせるため、伝えた後、考えのもととなる理由や意見の根拠に着目させ、考えを比べ合わせることに重点を置き、話し合いをした上で決議させた。

表1 「学びのサイクル7」の7つの段階で身に付けさせたい力と児童の活動

7つの段階	身に付けさせたい力	児童の活動
A 自ら気付く	・問題や課題に気付く。	・議題箱に気付いたことを話し合いテーマとして投稿する。 ・提案された議題について、問題や課題に気付く。
B 考えをもつ	・議題に関する考えをもつ。	・考えをホワイトボードや付箋、カードなどに書く。 ・論点を整理する。
C 伝え合う	・議題についての考えを出す。	・自分の考えを、理由や根拠を加えて発表する。
D 聴き合う	・友達の考えを理解し、相手の意見の根拠を理解できる。	・よい点、心配な点について互いの考えを伝え合い、聴き合う。
E 比べ合う	・どの考えがよりよいか、めあてやねらいなどに立ち戻り、考えることができる。	・意見交流する。 ・同じ考えの者同士相談する。 ・友達の考えを解釈する。 ・友達に考えを代弁する。 ・友達を説得する。
F 折り合う	・合意形成できる。 ・決議することができる。	・みんながよりよいと思える意見に決めることができる。 ・多数決なし、または多数決をとって決議する。
G 実行する	・みんなで決めたことを守って実行する。 ・振り返りを行い、次への気付きをもつことができる。	・話し合ったことについて活動する。 ・振り返りを行い、よかったこと、改善することを確認する。 ・友達のよいところを伝え、自分の改善すべき点を振り返る。



(2) 話し合い活動のテーマと内容

5月から12月までの間に、表2のような「学びのサイクル7」に沿った話し合い活動に繰り返し取り組んだ。話し合い活動のテーマは、身の回りの生活に関わる内容とした。学級委員が中心となり、議題箱に投書された意見も取り上げて議題を選定した。

表2 話し合い活動の具体的内容

月	話し合い活動のテーマ	内容
5月	子どもまつりを成功させよう	子どもまつりのめあてや具体的方法を話し合い、まつりを成功させる
6月	生活の中の問題を解決しよう	学校からなくしたい言葉について話し合う
7月	1学期のお楽しみ会を計画しよう	みんながさらに仲よくなるためのお楽しみ会の計画をたて、行う
7月	学級目標を振り返ろう	学級目標の良かった点と直す点を確認し、2学期に改善する方法を考える
8月	体育祭を成功させよう	6年生としての目標を決め、みんなが協力して体育祭を作り上げる
9月	2学期の学級のルールを決めよう	1学期に振り返った学級目標の改善点から、学級のルールを見直す
9月	2学期の係を決めよう	よりよいクラスにするために、2学期の係活動を決めて行う
10・11月	学習発表会を成功させよう	どのような学習の成果を発表したいか決め、発表会を作り上げる
12月	生活の中の問題を解決しよう	人によって言葉遣いが違うことを全校が直すためにどうしたらよいか考える
12月	2学期のお楽しみ会を計画しよう	みんながさらに仲よくなるために、お楽しみ会の計画を立て、行う
12月	学級目標を振り返ろう	学級目標の良かった点と直す点を確認し、3学期の改善する方法を考えよう

(3) 話し合い活動の具体例

① 活動時期 2013年6月24日

② 話し合い活動のテーマ 『生活の中の問題を解決しよう』

③ 議題 「全校が気持ちよく過ごすために、どのような言葉遣いが問題か整理し、改善する方法を考えよう」

④ 活動内容 議題箱に入れられた生活の中の問題点（相手によって話し方が違うこと）について、具体的にどのような言葉が問題か話し合い、解決する方法を考え、実践する。

⑤ 活動の流れ

7つの段階	活動の流れ	留意点
A 自ら気付く	議題箱は学級の話し合いに取り上げたい議題として、気付いたことをいつでも入れる箱であることを知る。	
B 考えをもつ	生活の中の問題点に関する自分の考えを「議題募集カード」に書き、議題箱に入れる。	初回は時間をとり、よく考えて自分の考えを書き、生活を見直させる経験を積ませる。
	学級委員は、議題箱に入れられた意見を確認し、議題を入れる。話し合い活動の手順や流れをまとめる。	学級委員と担任が議題箱を開け、多数派意見を選別し、学級に議題として示す。あくまで「子ども自身が気付いた問題」という視点を大切にする。
	提案された議題について、自分の考えを1つにつき1枚の付箋に書く。	思いつかない児童には、日常生活について、「挨拶は?」「教室移動は?」など、課題となりそうな場面を具体的に提示し、振り返らせる。
C伝え合う D聴き合う	【どのような言葉遣いが問題か、整理しよう】 同じ考えごとに、理由を話しながら付箋を出し、まとめ、整理する。考えを比べ合い、何が改善すべき問題か、確認する。	互いの考えに対する理解が深まるよう、思いや考えの違いを、じっくり比べ合わせる。教師は話を聴き、合間に対立点を確認したり、問題を焦点化したりし、助言を行う。
E比べ合う F折り合う	確認した問題に対する改善策を各自考え、付箋に書く。	付箋に記入する時間を確保する。自分たちの力で生活をよりよくしていこうとする意識をもたせる。
	【問題を改善する方法を考えよう】 同じ考えごとに、理由を話しながら付箋を出し、まとめ、整理する。考えを比べ合い、改善するにはどうしたらよいか集団決定する。	互いの考えが分かるように、考えの理由に着目して比べ合わせる。

G実行する	【全校に働きかける分担を決めよう】 めあてとそのために必要なルール（具体的行動目標）、工夫する点を決める。	実践後に子どもが振り返ることができるよう、具体的な行動ルールを決められるように助言をする。
	係分担やメンバーを決める。	自分が力を発揮できるのはどの係か、力を付けたいのはどの係かという視点で選ばせる。
	係ごとに、仕事内容や分担、いつまでに何をするかなどについて話し合い、計画をたてる。学級全体に報告する。	自主的に、また学級全体で取り組む意識をもたせるために行う。何時から振り返りを行うか明示し、守らせる。振り返りの時間を確保する。
	計画に沿って準備をする。毎時間、係の代表が最初の3分でその日の活動内容を全体に伝える。また最後の5分で係ごとの振り返りを行い、学級全体に報告する。学級委員はまとめ、質問や意見も伝え合う。	めあてやルールが守られているか、学級委員や係の代表に確認させる。
	実践と振り返りを行う。	できたことを褒める。また、振り返りの内容は次の活動へとつなげられるよう働きかける。

5 研究の結果と考察

(1) 「学びのサイクル7」に関するアンケートにおける児童の変容（表3，図2）

表3は、話し合いアンケートの結果を示したものである。また、図2にそれをグラフ化した。「B考えをもつ」と「C伝え合う」、「E比べ合う」、「F折り合う」ことにおいて、学級の平均得点が向上している。特に「B考えをもつ」と「E比べ合う」が伸びており、「B考えをもつ」が伸びたのは、話し合いの際に考えを思いついた児童だけが発言するのではなく、事前に議題を提示し考えをもつ時間を設定したことが有効であったと思われる。また、話し合いの際に、それまで考えを伝えなかった児童も自分の考えをもつことで、興味をもって友達の話聴く姿が見られた。「E比べ合う」が伸びたのは、誰が言ったかが重要にならないように、考えの質やめあてとの関わりに着目し、よりよい考えを選ばせたことが有効だったと考えられる。考えをもつことで他との違いに気付き、関心が深まり、固定化した人間関係に縛られずに自分の考えと比べながら話し合う姿が見られた。

表3 話し合いアンケートにおける学級の平均得点（4点満点）

7つの段階	アンケート項目	事前 6月	事後 12月
A自ら気付く	クラスや自分たちの生活の中で気付いた問題を、解決しようとしている。	3.4	3.4
B考えをもつ	勉強や生活の中の問題について、自分の考えをもつことができる。	3.1	3.5
C伝え合う	自分の考えを進んで友達に伝えている。	2.9	3.1
D聴き合う	友達の話上手な聴き方で聴いている。	3.3	3.2
E比べ合う	いろいろな考えを比べることができる。	3.1	3.4
F折り合う	自分の考えをおし通すのではなく、友達考えのよさもとり入れてよりよい方法を考えている。	3.3	3.4
G実行する	学級の話し合いで決まったことを進んで行っている。	3.6	3.5

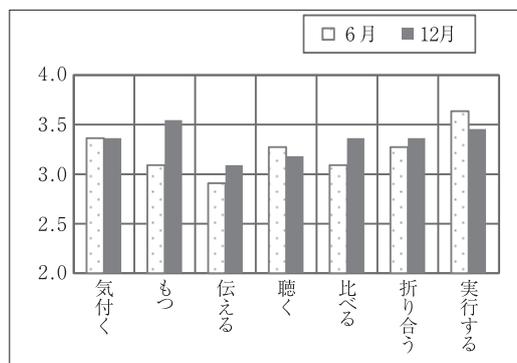


図2 話し合いアンケートにおける児童の変容

(2) 抽出児の意識の変容

① 考えを主張する児童の変化（図3，表4）

図3は、Q-Uアンケートにおける児童AとBの変化を表したものである。また、表4は抽出児A・Bの自由記述を一覧にしたものである。

児童Aは5月、Q-Uアンケートで侵害行為認知群に属していたが、9月に満足群に移動した（図3）。話し合いアンケートでは「B考えをもつ」「C伝え合う」「D聴き合う」「E比べ合う」で評価が上がり、平均得点が2.6から3.3に向上した。また自由記述では、「6年生になり考えを比べることができるようになった。」と振り返っている（表4）。集団の中で発言力が強かった児童であるが、周

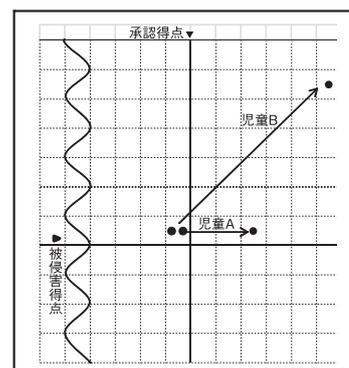


図3 Q-Uにおける児童AとBの変化

りが意見を言わないことを嘆いていた。考えをもち、伝える児童が増えたことで、穏やかに話し合いに参加する姿が見られるようになった。友達の考えと比べるようになり、主張を抑え、友達の考えを聴こうとする意識に変容したと考えられる。

児童Bも5月はQ-Uアンケートで侵害行為認知群に属していたが、9月に満足群に移動した(図3)。話し合いアンケートでは「B伝え合う」「E比べ合う」で評価が向上し、平均得点が3.0から3.4に向上した。何とか話し合いを成立させようと考えを伝えていた児童であるが、児童Aの意見に流されることが多かった。しかし児童Aが主張を抑えるようになり、Bは自分の意見を主張できるようになったため、承認得点も向上した。自由記述では、主張しすぎたことを反省もしている。話しやすくなったことで人間関係がよりよくなったと振り返っており(表4)、比べ合う話し合い活動が固定化された人間関係の改善に有効であったと推測される。

表4 児童AとBの話し合いアンケート等における記述より

児童	道徳の振り返り(5年9月)	成長したと思うところ(6年10月)	成長したと思うところ(6年12月)
A	言えるかもしれないけど、先生がいなくなるとブツブツ言う人がいるかもしれないから言わない。	意見をたくさん言えるようになった。みんながたくさん意見を言っていた。もっと仲よくしていきたい。	私は5年生の時、友達の意見と自分の意見を比べないうちにたくさん発言していたが、6年生では意見をあまり言わなかったけど、意見を比べられるようになった。友達は6年生になってからたくさん意見を言うようになったので、話し合いがやりやすくなった。前は意見が出なくてなかなか決まらなかった。時間だけが過ぎていったけど、それがよくなった。
B	言ってもへりくつで言い返されてとても嫌だった。話し合いが成立しない。	成長したところは自分の意見をたくさん主張している。みんなが意見を言っている。今後は友達の意見を取り入れる。	みんなで昔より声を掛け合って協力して何事にも取り組んでいる。前より仲がいい。話しやすいし、言いやすい。人間関係がいい。直したいところは、自分の意見を通しすぎ、他の意見を聴かないことがあるところです。

② 考えを伝えられなかった児童の変化(表5)

表5は抽出児C・Dの自由記述を一覧にしたものである。児童CとDは、5年生時に考えをもって伝えるように取り組んだところ少しずつ考えを伝えられるようになり、友達からも認められるようになってきた児童である。Q-Uアンケートでは、5年生時に非承認群から満足群に変わって以降、満足群に常に属しており、プロットに大きな変化は見られなかった。話し合いアンケートでは、児童Cは「B考えをもつ」「C伝え合う」「F折り合う」で、児童Dは「B考えをもつ」「E比べ合う」で評価が向上した。平均得点も児童Cは2.9から3.5に、児童Dは3.3から3.8に向上した。自由記述では、意見を伝えることの大切さや自分の意見に賛同してもらう事への喜びが表されており、考えを伝えられなかった児童にとっては、考えを伝えることで自分を認めてもらえる場が増えたと推察される。「自分が意見を言うのは大切」で「自分の意見に自信」をもてたことは、「言ってもムダ」という認知上の固定化(思い込み)の改善に効果があったと思われる。「児童CとDが自分からたくさん手を挙げて意見を言うようになったのですごく変わった。話し合いが進んでいい。」と記している児童もあり、ただ同調していた児童の変容がうかがえた。伝え合って比べ合う話し合い活動に繰り返し取り組むことが、誰もが建設的な意見を自由に交換できる場が保障されるきっかけとなり、固定化された人間関係の改善につながったと考えられる。

表5 児童CとDの話し合いアンケート等における記述より

児童	道徳の振り返り(5年9月)	成長したと思うところ(6年10月)	成長したと思うところ(6年12月)
C	私は自分より下の人には言えるけど、上の人には言えない。理由は言いづらいから。でも言えるようにがんばりたい。	成長したことは、前よりも自分の考えをもち、伝えることができるようになったことです。みんながたくさん意見を言っていてすごいなと思いました。今後は自分の意見もしっかり伝えて、友達の意見もどうしたらもっとよくなるかとか考えられるようになりたいです。	5年の頃に比べて、自分から手を挙げて発言するようになった。5年の頃は自分の意見を伝えることができななかったけど、6年生になって伝えられるようになり、その意見にみんなが賛成してくれたりしたので、自分が意見を言うのは大切なんだなと思った。今は、友達の意見と自分の意見を組み合わせてよりよくしようと思うことがよいと思う。
D	私は言わない方です。本当は言いたいけど、言ったらもっと嫌なことを言われるんじゃないかと思ってしまうからです。でもずっと我慢しているんじゃないかと、自分も言えるようになりたいなと思っています。	自分の考えをしっかりともち、自分から進んで伝えている。友達は上手な話の聴き方をしている。友達のよさを取り入れていた。今後はいろいろな考えを比べ、自分からもっと考えを伝えるようにしたい。	自分は前より大きな声で意見を言うことができた。友達もしっかりと理由を付けて意見を言うようになったし、その理由も分かりやすい理由だったのでよかった。5年生の時よりも自分の意見に自信が持てるようになった。まだ言わなきゃいけないプレッシャーはあるけど、言わないよりも言う方が自分の考えがみんなに伝わるのですごくうれしい。前は言えなくてもやもやしていたけど、言えるようになってすっきりした。

(3) Q-Uアンケートにおける集団の関係性の変化

表6は、Q-Uアンケートにおける児童の学級満足度尺度の割合を表したものである。また、5月と9月のQ-Uアンケート「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の質問項目と学級平均を表6に示した。5月は、侵害行為認知群が18%いたが、9月には全員が学級生活満足群に入り、学級生活を満足と感じる児童の割合が100%となった(表6)。

また「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の学校生活意欲の学級平均(最高値12)を見ると、「友達関係」が10.5から11.1に、「学級の雰囲気」は11.1から11.6になり、友達や学級集団との関係性が向上している。質問項目別にみると(表7)、「あなたのクラスには、いい人だと思う友達や、すごいと思う友達がいいますか。」「あなたのクラスは、明るく楽しい感じがしますか。」という質問に対し、9月には全員が「とてもそう思う」と答えている。「あなたは、クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか。」の質問項目は、他に比して平均値が低かった項目であり、これまで学級の課題として捉えていた。これは学級の人間関係の固定化があり、関係に不安定さが見られたためである。しかし9月の結果では、大きく伸びている一つの項目として挙げられた。5月から9月の話合いの取組を通じて人間関係の不安定さが解消されつつあり、認知上の固定化(思い込み)が変化することで、集団の関係性がよい方向に変化していると推察される。

表6 Q-Uアンケートにおける児童の学級満足度尺度の割合

	学級生活満足群	非承認群	侵害行為認知群	学校生活不満足群
5月	82%(9人)	0%	18%(2人)	0%
9月	100%(11人)	0%	0%(0人)	0%

表7 Q-Uアンケート「やる気のあるクラスをつくるためのアンケート」の学級平均(最高値4)

	質問項目	5月	9月
友達関係	1 あなたのクラスの人たちは、あなたに声をかけてくれたり、親切にしてくれたりしますか。	3.5	3.8
	2 あなたのクラスには、いい人だと思う友達や、すごいと思う友達がいいますか。	3.9	4
	3 あなたは、クラスの人から好かれている、仲間だと思われていると思いますか。	3	3.3
学級の雰囲気	7 あなたのクラスは、明るく楽しい感じがしますか。	3.7	4
	8 あなたのクラスは、みんなでなかよく協力しあっていると思いますか。	3.7	3.8
	9 あなたのクラスは、勉強やいろいろな活動に、まとまって取り組んでいると思いますか。	3.6	3.8

6 まとめと今後の課題

「学びのサイクル7」に沿った話合い活動の実践で、自分の考えをもって伝えることで友達の考えにも興味をもち、考えを比べ合う姿が見られるようになった。誰もが考えを伝え合い比べ合うことで、児童の意識が変容し、「言ってもムダ」という認知上の固定化(思い込み)を改善することができた。小規模校での人間関係の固定化を改善するためには、このような話合い活動の体験を積み重ねる必要性が示唆された。

今後の課題として、考えの比べ合いはできても、議題によっては安易に折り合う姿が見られることが挙げられる。考えを高め合い、より深い折り合いへと向かうことができるよう議題を精選したり、「学びのサイクル7」を見直したりしたい。そして、より議論を深めた折り合いを目指し、互いの考えを聴き合う姿が見られる学級集団へと高めていきたい。

参考・引用文献

- 岩島亜紀子、「学級活動(1)の話合い活動を中核にした学級経営—話合い初期段階の学級における教師の指導に着目して—」上越教育大学学校教育総合研究センター『教育実践研究 第22集』,2012年,249-254pp
- 新潟県小学校教育研究会 新潟市立関屋小学校、「互いのよさや個性を生かして、よりよい学校生活を築こうとする児童の育成」『平成21・22・23年度 新潟県小学校教育研究会補助事業 特別活動研究大会 紀要』,2011年
- 橋本定男、「学級会における多数決の意義と望ましい在り方」『道徳と特別活動』,2013年,4-7pp
- 河村茂雄、『Q-Uたのしい学校生活を送るためのアンケート小学校用』,図書文化
- 魚沼市立入広瀬小学校,リーフレット『自治的な学級集団の育成』,2013年